



子育てに学ぶ こどもの遊び（2）

こどもに恵まれたら、こどもには『優しく賢い子に育ててほしい』と思うのは当然のことと思いますが、『賢いこども』という一体どういうことをイメージされるでしょうか。

私の考える『賢さ』は単に記憶力や判断力があるという事ではありません。大人になった時、『自分で柔軟に考えて自分で判断して決断した後に実行できる事』だと考えます。なんだ、そんなこと当然じゃないか、と思われるかもしれませんが、でもこれは実に難しいことなのです。自分で考えて判断するためには自分の思い込みや印象、自分の感情などに振り回されずに判断するという『思考力』を育て、そして実際に決めたことを『する』ことでしか達成できないと考えるからです。『思考力』というとすぐに物覚えが良くて機転が利くことだけにとらわれてしまいがちですが、本当はその思考力を実行までに至らせないと『賢さ』にはつながらないと私は思うのです。

こどもは2歳半前後から『見立て遊び』という遊び方をします。これは大人の実際の生活を真似して再現する遊びです。お料理やお掃除やアイロンかけをしたりする真似ごっここの場面はとてもほほえましいものです。我が家の孫も今その時期にあり、柄のついた長い棒を掃除機に見立てて家中をお掃除し、おもちゃとして準備している胡桃やサザエの蓋を丸い籠に入れてせっせとお料理しています。スマホのような形のものを見つけるとお母さんの口調そのままに再現するのでいつも大笑いになります。周りにいる大人の行為や言葉を写真のように取り込んで、大人がしているように表現するのです。

この『見立てて遊ぶ』という行為はどの子にも見られます。こどもは長い棒が掃除機でないことも胡桃が本物の食材でないことをちゃんとわかっていますが、それを自分の想像する物や食材に変化させて遊ぶことができるのです。この『想像して他のものに変化させる力』を私たちは『ファンタジー』と呼んでいて、思考力の始まりだと捉えています。ファンタジーの力は、何かに変化できる物がないと触発されません。この力は自然に備わった力ですが、育てなければ萎えてしまいます。そこには自分の力で変えていくという『する＝意志』力が隠れているからなのですが、なんと意志は楽な方へ楽な方へ流れていってしまうのです。物を自分の想像したものに变化させて遊ぶことはその子自身のなかで努力が必要で、その子の頭の中でしかできません。とても主体的な行為なのです。自分の力で変えていくためにはそこに变化させることができる『素朴な物』が必要なのです。すでに完成している車やスマホや人參の形をした食材のおもちゃでは自分の頭のなかで何も変えることができません。自分の思考力を全く使わなくて済むのです。

この『想像力』は将来の『創造力』へ繋がる大きな力となります。

私たちの人生は長く、その過程では様々なことが起こります。喜びや楽しさもありますが辛く悲しいこともたくさんあります。そんな人生に最も必要なのは記憶力ではありません。苦難に遇い行き詰った時に必要なのは自分の人生を変えていこうとするファンタジーの力であり、様々なことを想像して変化させ、自分の人生を未来に向かって創造していく力なのです。

『遊び』という私たちは『生産性のないもの』と考えがちですが、幼いこどもにとって『遊び』は豊かな人生を創り出すために基礎となる重要な活動であり仕事なのです。

（シュタイナーようちえん メルヘンこども園 教師 田上恵子）